

西播磨の古道を巡る

～ ドローン(空撮)で見る いにしへの道 ～



古道

1. 古代美作・因幡道 (古代の十字路：佐用町)
2. 古代山陽道 (布勢駅家：たつの市、野磨駅家：上郡町)
3. 近世山陽道 (太田庄：太子町、矢野荘若狭野：相生市)



琴坂から延びてくる直線道路 (たつの市揖西町)

〈今回巡った西播磨「古道」〉

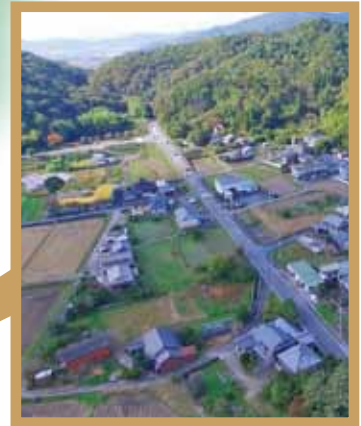
西播磨地域を通る古代から近世の道（古道などの表記は一般的な呼称としました）は、数多くあります。その中で今回は代表する三つの道を北から選びました。

西播磨地域

今回巡ったいにしへのみち



古代の十字路（佐用町）



「布勢駅家」小犬丸あたり
（たつの市）



「野磨駅家」落地あたり（上郡町）



矢野荘若狭野（相生市）



太田庄 桜井乃水（太子町）

古代美作道

佐用郡佐用町長尾地区



◎この地域は、古くから古代美作道と因幡道の結節点として、人の往来や物の流通などで栄えたことが偲ばれます。

奈良時代には、官衙、寺院、瓦や鉄の生産遺跡があり、長尾・沖田遺跡では「条里制(今の区画整理)」の痕が今でも残っています。

◎長尾遺跡では、県立佐用高校北部に古代寺院である長尾廃寺跡が発見され、法隆寺式の伽藍配置と推定されています。また同校敷地の南部には古代佐用郡役所(群衙)と考えられる大型建物跡が複数発見されています。

同廃寺は「県指定史跡」で、塔心礎は現存し、その囲にある四つの大石が柱の基礎として用いられており、そのうち三基は佐用高校の玄関先の庭に置かれています。是非、何故ここにあるのか考えてみたいものです。

塔心礎は、戦前田んぼの中に埋まっていたものが発見され、地域を挙げてこれをお祝いし、お稚児さん行列が行われたとのことでした。

◎また、佐用高校の敷地内を美作道が縦断しており、高校の東方で南北の古代道路跡と、東西の交差部分が発掘調査され西へ進むと美作道方面へと続きます。

「古代の十字路」南には、松江藩本陣跡の大銀杏を望むことができます。空撮写真(上記写真)では、現在の道路に重なり、古代十字路が確認できます。北へ進むと江川の谷に入り

因幡方面への古代ルートと考えられます。この地域の山裾(現中国自動車道)辺りは、秀吉の中国攻めの戦いに関係すると思われる五輪塔が多数発見され、残っています。



佐用高校玄関先



長尾廃寺跡「塔心礎」

参加者の所見

- ◆この地域は、美作・因幡・播磨の交通の結節点にして、文化・風習などが行き交い交流地点として発展したと考えられます。
- ◆古代からの条里遺構が今も確認することが出来ます。

古代山陽道(1)

たつの市揖西町小犬丸地区



- ◎この布勢^{うまや}駅家^{こいぬまる}（小犬丸遺跡とも）は、1980-1990年代に、兵庫県教育委員会と龍野市教育委員会によって発掘調査がされ、全国で初めて駅家遺跡と確認された遺跡として注目されています。
- ◎駅家は「延喜式」では、全国に402駅あったとされています。
- ◎表紙（空撮）の、琴坂から延びてくる直線道路は、古代官道の

面影を残しています。途中に「布勢駅家跡」の説明看板を目にすることが出来ます。

現在、県道5号線が古代山陽道と重なるように東西にのびています。

- ◎古代山陽道は、七道の中でも、都と大宰府（九州）を結ぶ重要な街道として「大路」に位置づけられています。駅家は規定では約16kmごとに設置されますが、当時の播磨国に9駅が置かれ、約11kmと短い距離に設置されています。

◆駅家とは、当時の乗り物（馬）を乗り継ぎする役所。駅家は飛鳥時代から奈良時代に官道の整備とともに設置が始まったと考えられています。

- ◎この地域は、桑原里と呼ばれ後に布勢郷が分立します。駅家は里長や郷長が兼務したのではないのでしょうか。

周辺には、駅長を務めるような豪族に関係すると想定される「長尾薬師塚古墳」や「小犬丸中谷廃寺跡」などの見所があります。

- ◎「小犬丸」の歴史について江戸時代後期に内海雨川（1790～1859）が記した地誌『解説通俗鯉丸誌』があります。（下図に写真）小犬丸は、鯉丸とも書かれたようです。

<小犬丸遺跡>

- ◎「驛」と墨書された土器、「布勢驛」と記された木片、建物跡が発見されています。遺構には、礎石柱の瓦葺建物跡があります。駅家は一辺が約80mの築地塀を備えていた館と想定されます。



発掘を担当した岸本道昭氏（たつの市教育委員会）の講演



「通俗鯉丸誌」

参加者の所見

- ◆往時、道路は移動と運搬、通信のための手段として、また政治・経済・軍事・文化そして庶民の風習も行き来したものと、街並みが伝えています。表紙のドローン写真では、現在に至るまで直線道路であった事が確認できます。

古代山陽道(2)

赤穂郡上郡町落地地区



◎野磨駅家は、初期の堀立柱建物と後期の礎石建物の遺跡群が同じ地域に存在が確認され、駅家全体像がわかる貴重な遺構です。また、駅家としては全国で唯一の「国史跡」として指定された貴重な遺跡です。

◎古代山陽道に沿った野磨駅家辺りには、八保遺跡・西田遺跡・山野

里大坪遺跡などが存在しています。

◎これらは「今昔物語集」「枕草子」の文献に記載されています。文献には播磨国赤穂郡の山駅（やまえき）は「野磨駅家」と考えられています。

◎上郡町は今後、「大鳥圭介」・「歴代赤松家」と共に「野磨駅家」を広く紹介される予定です。地元では、駅家活用委員会が発足し、イベントなど数多く企画され、特に「鈴」（官道を往来する役人が馬に乗る際に用いた鈴）。鈴の試作品（復元）が製造されています。

◎この落地遺跡内に「野磨駅家」が設けられた条件について、興味深い話が聞きました。この地域は、経済的に豊か（駅馬を飼う経済力がある地区）な数少ない里（郷：約50戸単位）で、駅家の馬は20疋と上位クラスの保有とのことでした。駅家の維持管理は駅長と駅子が世襲して経営していたそうです。

◎この落地遺跡を通る幅員は、遺構の芯々間で「約10m」あり古代官道の中では、重要視されていたことがわかります。後期駅家は、国の指示で白壁・朱塗りの柱・瓦葺などで整備され最先端の技術が使われていたとおもわれる。（遺構調査から）

<公開>

◎「おろち伝説」は、地元の方々と梨ヶ原小学校（現在は廃校）と、野磨駅家を題材に一千年前の説話の舞台を、「今昔物語集第14巻」とした絵を制作しています。



落地公民館で説明会

参加者の所見

- ◆今後地域の宝をいかに売り出すかを、行政と地元とよく検討されています。
- ◆地形を利用した直線道路が、印象的な遺跡群であります。訪問時には、駐車場も整備されていました。

近世山陽道(1)

揖保郡太子町太田地区東部



東方面を見る

太子町東部に位置する旧太田庄に属した原・太田地区には、近世山陽道が整備されていて、その足跡が数多く見受けられます。幹線交通路として東西交流が盛んに行われ、人や物資の往来を通じて多くの文化・風習が生まれました。

古くは「播磨国風土記」、中世では「峯相記」、近世では「播磨鑑」といった書物にこの地域のことが記されています。この地域に関係が深い箇所を旅人の気持ちで訪ねました。

◎原坂を少し上ると、当地で代々医院を営む旧家、開発家住宅があります。近世山陽道に面したところに入口があり、軒下には昔の消防ポンプ（竜吐水）が置かれ往時が偲べれます。



石積・灯籠の前で説明を受けました



一段高い座敷と重厚な額が特徴でした

敷地内には江戸期の庭園様式がいい状態で保存されています。屋敷内には、代々龍野藩主の休息に使われた建物があることを伺いました。一段高い

座敷（上段の間）が設置され、座敷机には脇坂家の家紋入りのたばこ盆が置かれていました。

◎播磨十水の一つ「桜井乃水」は、この旧家の北側に位置します。名水も単に水の良さだけではなく、その由来や付随する物語、周囲の景色なども考慮して選ばれたようです。

「黒岡に往来の人も心あらハ薬ともなれさくら井の水」の和歌を赤松広英が詠みました。

◎黒岡神社は、応神天皇、菅原道真、藤原貞国の三柱をお祀りする旧太田庄の総鎮守社です。神功皇后が三韓征伐よりの帰途、この黒岡に兵を集め評議をされたご縁で八幡宮をお祀りしています。「コトアゲ」が「クロオカ」に変わったという説があります。

同社には、天平宝字8年（764）、攻め込んできた新羅の大軍を討伐した偉功により、播磨西5郡を賜った藤原貞国が黒岡明神として祀られています。境内には古墳時代後期の古墳があります。径約15mの円墳で、墳丘・石室ともに保存状況は良好で石棺が残されているのも貴重です。貞国の逸話は、ローカルなヒーロー伝説として中世の地誌「峯相記」に登場します。



社殿には、奉納された貴重な絵馬があります



片袖横穴式石室内には石棺が残されています

参加者の所見

延喜元年（901）菅原道真が筑紫へ下る時、黒岡八幡宮へ御参詣された後、和歌二首と木像を下賜されました。霊験あらたかな神社であるので、嘉吉3年（1443）に飾磨郡英賀村の人達が懇願し英賀神社に分霊しています。八幡宮や天満宮という黒岡神社の歴史の変遷は興味がありません。一度お訪ねください。

近世山陽道(2)

相生市矢野荘若狭野



若采野陣屋辺り

ました。以降、矢野荘（播磨国赤穂郡）の中に若狭野が存在していたと考えられています。

- 今回、若狭野地域の代表的な「若狭野天満神社（あじさい神社）」と「浅野家陣屋跡」を訪問し、その史実といくつかのトピックスを紹介します。

- ◎「若狭野天満神社」古来、矢野荘一帯（十八ヶ村）の産土神としての神社。

神社に咲くあじさいの花が有する魔除けの御神霊力により「魔除け天神」としても有名。参道入り口の石灯籠中段側壁には、白兔海岸（鳥取県）の兎をモチーフにしたと思われる「兎と波」の絵柄があり、若狭野にも出雲文化圏の影響があったことがうかがえます。（必見です）



若狭野天満神社

- ◎「秦氏」の話も興味深い。渡来系氏族であり、平安京の造営におけるエピソードの中で矢野荘とのかかわりがあり、製鉄や建築技術など「ハタ：秦」にまつわる表現や伝承（詳細は省略）を調査すると、より一層興味が深まると思われます。

- 「浅野家陣屋跡」陣屋とは、城郭をもたない小藩の大名や旗本の統治拠点施設です。

- ◎1671年赤穂藩主浅野長直の孫、長恒が分家して（幕府直参旗本・・将軍に接見できる直属の家臣）となり、若狭野13カ村3,000石の知行が認められていました。

- ◎陣屋辺りの跡には、札座・陣屋表御門・稻荷神社本殿・若狭野須賀神社・若狭野薬師堂などが「若狭野陣屋図（明治初め）」で見ることができました。



浅野家陣屋跡

参加者の所見

- ◆若狭野の地域は、「鶴亀の石組み」「高札場の設置」「近世の繁栄跡」など、たつの市小犬丸を結ぶ経路により、多くの行き来があり、興味深いところがたくさん見受けられました。



(注1) 長州藩「行程記」解説図 出典：揖保川町史 第1巻付図3

編集後記

早いもので、「西播磨交流大作戦チーム」の2年間の活動期間を終えようとしています。西播磨地域の課題の一つに、人口減少と少子高齢化が挙げられます。このような地域ではありますが、播磨風土記の中心地域である西播磨には、古来から近世さらに現代に至るまでいくつかの街道整備が進み、人の往来を通して多くの文化・風習・建築技術などが受けつがれてきました。

私たちは、そこに着目し今まであまり知られていなかった街道に隣接したいくつかの地域を訪問し、専門家、地域住民の方々との交流を通じて、新たな発見と地域特有のトピックス的事象を知ることができました。そこで、このような地域を広く紹介することで注目が集まり、そして関心をもっていただき訪問して下さることを願っています。

今回「西播磨の古道を巡る」を作成いたしました。また、その地域に古道が存在し、どのように発展したかなどを探るため「ドローンによる空撮（写真）」を行い、周辺地形などを紹介することができました。各訪問地の上空からの写真を掲載いたしました。

作成については、各地域を訪問し専門家の先生からの助言、地域住民の方から貴重なお話を頂きました。心よりお礼と感謝申し上げます。また私たちの経験不足と文章力が不十分なため、思いとは違った表現になっているところがあるかもしれません。何卒ご理解とご了承のほどお願いいたします。

また、この西播磨地域には今回訪ねた古道につながる特色のある数多くの古道が存在します。機会があればそれらを紹介したいと思います。

令和2年(2020年)3月



<執筆メンバー紹介>

- ◎ 生駒 憲二
- 村上 公伸
- 永富 元
- 神南 隆司
- 坂元 淳

西播磨地域ビジョン委員会 facebook・hp 紹介

第9期西播磨地域ビジョン委員会の活動内容の発信をFacebookページ「西播磨地域ビジョン委員会 ネットde応援し隊」にて公開しておりますので是非ご覧ください。

兵庫県のホームページでも各チームの活動や出る杭大会の結果など随時更新していますのでそちらもあわせてご覧ください。



兵庫県ホームページ(西播磨地域ビジョン委員会の活動状況)
URL:<https://web.pref.hyogo.lg.jp/whk02/vision/iinkai.html>



Facebookホームページ(ネットde応援し隊)
URL:<https://www.facebook.com/nettodeuensitai/>



連絡先：西播磨地域ビジョン委員会事務局（西播磨県民局県民活動支援課内）
〒678-1205 赤穂郡上郡町光都2-25
TEL 0791-58-2128 FAX 0791-58-0523

